

2019年11月25日

「日本の展望 2020」に関する意見

本年10月の学術会議総会中の第三部会で「日本の展望 2020」に関する情報交換・意見交換が行われました。その際にも様々な意見が出されましたが、ここに改めて物理学委員会委員長として、日本の展望 2020 に関して意見をお送りいたします。「日本の展望 2020」の作成にあたってご配慮いただければと思います。

物理学委員会委員長としての意見：「日本の展望 2020」の原稿は9章からなり、主に1から8章は日本の近未来社会の展望、あるいは近未来社会への学術の関わりとの観点で議論が進められていると理解しています。学術の成果が社会の広いところで様々な形で利用されている現代社会においては近未来社会と学術の関係を展望することは極めて重要であり、その意味で1から8章が構成されていることに関しては結構と思います。

しかしながら、学術の意義は直接近未来の社会の発展に貢献するという観点に限ったものではありません。学術の本来の重要性は、長い目で見て人類・社会の発展に貢献することであり、ここいう発展は経済的発展など、狭い意味の発展に限ったものではないと思います。また現在認識されている様々な課題の解決のみが学術の役割ではないと思います。その意味で、日本学術会議がとりまとめる「日本の展望 2020」における第9章「日本の学術の展望」の位置づけは極めて重要なものであると思います。このことに鑑み、物理学委員会委員長として第9章に重きを置くような構成で執筆していただけることを要望いたします。

以上、よろしく願いいたします。

物理学委員会委員長 梶田隆章